

3. 北関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的な状況の説明
家計動向関連 (北関東)	◎	旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・繁忙期は来月くらいまで続く。
	○	一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・海外からの旅行客も、国内旅行客も堅調に推移し、購買力も新型コロナウイルス感染症発生前に戻りつつある。観光地では人手不足が常態化しており、そのなかで、人手不足の企業とそうでない企業とで景況感に違いが出ている。
	○	一般小売店〔酒類〕（経営者）	販売量の動き	・懇親会需要が大分あり、飲料販売が増えたので、やや良くなっている。
	○	百貨店（店長）	お客様の様子	・少し前までは、米国の関税政策に右往左往し、消費は慎重で様子見状態だったが、ここにきて落ち着きを取り戻し、通常に戻っている。実際、来客数や客単価は回復傾向にある。
	○	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・値上げの影響があり、やや良くなっている。
	○	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・食料品などの値上げはあるものの、観光地に近い店舗では前年実績からの落ち込み幅が小さく、懸念事項とまではいえない。加えて来客数の増加も順調で、増収の条件は整っていると考えられる。
	○	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・ゴールデンウィークの影響で、帰省や行楽客が多く、駅の店舗の来客数は前年と比べやや回復している。
	○	家電量販店（店員）	販売量の動き	・前月からは前年比では10ポイント上がっている。前年との日並びを修正して今月は100%で着地している。エアコンが107%、パソコンハードが134%と好調で、売上をけん引している。夏日が連続する日があったため、季節商材は好調である。
	○	自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・来客数、交通量共に少なかったが、5月中旬くらいからの動き、販売量が微増しており、やや回復傾向にある。決して良い状態ではないものの、前月末から今月中旬にかけての動きよりは、少し動きが出てきている。
	○	旅行代理店（従業員）	それ以外	・臨時給与も予定よりも多く出てきている。
	○	タクシー（経営者）	お客様の様子	・全体的に昼も夜も動きが良かったので、前年同月と比べて5%の増収である。
	□	商店街（代表者）	お客様の様子	・物価上昇はこれからも続くため、景気の減退は避けられない。趣味し好の商材を扱う当店では、来店客の減少がみられる。
	□	一般小売店〔精肉〕（経営者）	お客様の様子	・花が咲いて緑が豊かな良い時期となり、各地のイベントは盛況だが、当店周辺はとても静かである。米価がなかなか下がる気配がないため、皆、一喜一憂しているからである。価格が下がってくれれば、多少は元気になるとみている。
	□	百貨店（店長）	販売量の動き	・前年売上との比較では若干マイナスで推移するものの、安定している。
	□	コンビニ（店長）	単価の動き	・物価が上がっていきながら、安い物が売れるようになってきている。
	□	衣料品専門店（販売担当）	来客数の動き	・物価高が相当家計を圧迫している分、当店の扱う婦人服は生活必需品ではないため、なかなか手が出ないというお客様の目が向かない。それほど物価高が影響しているようである。まだしばらくは大変な思いをせざるを得ない。
	□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・稼働日が少ない月だったが、堅調に受注があり販売量も確保できている。
	□	その他専門店（総務担当）	販売量の動き	・販売量をみても変わらない。
	□	一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	来客数の動き	・米国の関税政策、米価高騰等、原因は分からぬが、平日の来客数は低迷傾向である。会社関係の飲食機会が少なく、ゴールデンウィークと週末の個人消費で横ばいの傾向である。

□	その他飲食〔給食・レストラン〕（総務）	それ以外	・主力の給食部門では、新年度からの新規受託先は例年どおりに獲得できているが、人材採用が追い付かず、他の既存施設からの応援体制を続けている。応援のための経費もかさむことから、収支面が圧迫される状況は続いている。
□	旅行代理店（所長）	来客数の動き	・春先からインバウンドを中心に好調な状況が継続している。
□	旅行代理店（営業担当）	来客数の動き	・大阪・関西万博の影響か、来客数は減少している。一現場での景気状況は悪化しているが、業界全体としては好調といえる。
□	通信会社（社員）	単価の動き	・物価高による当社サービスへの影響が出ている。値下げや解約の問合せが増えしており、減少の見通しが立たない。
□	設計事務所（所長）	単価の動き	・諸物価高騰で消費者が動かない。政策で手を打つなどしなければ、このまま景気は上がってこない。
□	住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・世間の物価高と米国の関税政策の先行き不透明感により、動きが完全に停滞している。
▲	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・引き続き、食料品は価格上昇傾向にあり、それを要因とする買い控えが見受けられる。また、比較的堅調に推移してきた衣料品の動きが失速しており、苦戦を強いられている。
▲	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・3月までは堅調な動きであったが、4月以降は非食品部門の売上が伸び悩んでいる。値上げや米価高騰の報道等を受け、客が不要不急な購買を控える傾向だと考えられる。
▲	スーパー（総務担当）	来客数の動き	・米価高騰の報道は多いが、当店でも米の動きが鈍くなっている。客はより一層、価格にシビアになっている。
▲	スーパー（商品部担当）	来客数の動き	・売上、来客数共に、前年割れが依然として続いている。競合店の出店や物価高の影響が大きい。
▲	乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・諸物価が少しづつではあるが、確実に上がっている。米価等も大騒動の果てに今の状況では、庶民の購買意欲は減少し、必要最低限の物しか買わない。
▲	住関連専門店（店長）	販売量の動き	・売上が減少しており、やや悪くなっている。
▲	一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	来客数の動き	・宴会予約は多少入っているものの、フリー客の動きが鈍い。
▲	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィークが終わって急にひっそりしている。ただし、これは例年どおりのため、想定内である。
▲	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・4月後半から5月にかけて、地域全体で前年より来客数が減少している。様々な要因はあるが、インバウンドが好調の反面、ベースとなる国内旅行にブレーキが掛かっている。物価やエネルギー価格の高騰、政治不安が旅行需要の足を引っ張っている。
▲	タクシー運転手	お客様の様子	・タクシー利用客がかなり減っており、電車から人が降りてきても、ほとんど乗らない。駅で客待ち1時間は当たり前前の状況である。ゴールデンウィークにどこかに出掛ける人は多かったが、来訪者がいない地方のタクシー業界は衰退している。
▲	通信会社（営業担当）	単価の動き	・食品を始め、各種値上げがいまだ止まらず、食費を中心に節約志向が強くなっている。
▲	通信会社（総務担当）	お客様の様子	・60歳以下、特に若い客は消費に積極性が出てきているが、高齢の客は消費に一層ブレーキを掛けしており、2極化が進んでいる。
▲	通信会社（局長）	単価の動き	・依然として物価高は収まらない。4月や10月には値上げ実施企業が多く、買い控えにつながっている。
▲	テーマパーク（職員）	来客数の動き	・ゴールデンウィークの日並びと雨天による来園者減少や、毎週末の降雨やガソリン価格の高騰等、マイナス要因が多くある。
▲	ゴルフ練習場（経営者）	お客様の様子	・街中の車の台数や歩行者数が少ない。
▲	ゴルフ場（従業員）	単価の動き	・天候の影響があるものの、来場者や客単価は前年を下回っている。

	▲	美容室（経営者）	来客数の動き	・施術料の売上は前年と同程度だが、店頭販売品の売上は落ちている。4月からの商材の値上げや物価高騰のしわ寄せをもろに受けている。
	▲	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・個人経営の中小企業の店で、後継者の問題や販売不振による閉店が、やや目立ってきたような感じがある。特に、この周辺は家賃等が上がり、いまだ空室も大変多く、やや閑散としており、大変動きが悪い。
	×	一般小売店【家電】（経営者）	単価の動き	・何もかもが物価高で、なかなか小売価格に反映ができないことが多い。
	×	乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・客の残業や休日出勤が増えない。
	×	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・依然として物価高の影響が続いている。主婦層の来店頻度が落ちている。
	×	その他住宅【住宅管理・リフォーム】（営業）	販売量の動き	・年度末の3か月前と比べると、明らかに依頼件数が減少している。
企業動向関連	◎	—	—	—
	○	化学工業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・今まで引き合い状態だった注文が、確定している。
	□	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・食品関係の販売量はさほど変化はない一方、価格は高止まりの状況が継続し、消費自体は弱含みである。
	□	窯業・土石製品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・通常どおりの稼働で変わらない。
	□	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新たな引き合い案件はあるものの、小型案件が多く受注や販売量の増加にはつながらない状況が続いている。既存案件も増産の動きはない。
	□	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・ゴールデンウィーク等もあり、レジャー、キャンプ、バーベキュー、園芸用品等の物量は前年並みを確保している。しかし、燃料価格の高騰は続いている上に、ドライバー不足によるコスト高もあり、利益は薄くなっている。
	□	経営コンサルタント	それ以外	・米国の関税政策の影響がまだ不明であるため、中小企業、特に自動車関連等の下請企業の業績が落ちている。そのため、新規顧客の開拓や旧顧客への再営業に取り組み、一定の動きが出始めているところもある。個人消費は、今年のゴールデンウィークは近場で済ませ、支出を抑えたそこそこの消費が多かったようである。
	□	司法書士	受注量や販売量の動き	・2年ほど前に相続登記が義務化されて以来、少し良くなつたままずっと変わらずにきており、3か月前と比べると変わらない。2~3年前と比べたら、少し良くなっていることは確かである。
	□	社会保険労務士	取引先の様子	・今のところ、大きな変化はみられない。
	▲	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量が減り始めてきたので、米国の政策の影響なのか分からぬが、皆少し控えている状況である。
	▲	輸送用機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・5月はゴールデンウィークで10日ほど休んだが、取引先も同様に休みが多い月のため、やや悪くなっている。
	▲	金融業（営業担当）	それ以外	・利益率、粗利益率は、中小企業では同率あるいは減少状況である。
	▲	広告代理店（営業担当）	取引先の様子	・取引先飲食店の閉店が増えている。特に、フランチャイズ加盟店の閉店が多い。
	×	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・取引先全てで受注量が減っている。過去に例のないほど受注が減少している取引先もあるため、先行きが不安である。
	×	不動産業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・建物管理の清掃部門では、取引先からの受注削減があり、売上が減少している。資機材の値上げも続いている。価格転嫁が追い付かない状態である。
雇用関連	◎	—	—	—
	○	—	—	—

(北関東)	□	人材派遣会社 (経営者)	求人数の動き	・スーパー、小売店等の販売員はパートが中心になるが、採用が非常に厳しく、良い人材がなかなか見付けられない。生鮮食料品では、夏物や春物野菜の価格はやや落ち着いてきたようである。ガソリン価格も5円近く安くなってきたため、生産や道路、公共事業関係への影響は幾分緩和されたとみている。全体的には変わらない。
	□	人材派遣会社 (管理担当)	採用者数の動き	・高時給の派遣や自宅と職場が近い派遣のみ、応募者が多い状況が続いている。その他の仕事では応募者が集まらない状況は変わらない。
	□	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・新規求人数の前年同月比が増減を繰り返している。
	□	学校〔専門学校〕(副校長)	それ以外	・物価上昇により、消費行動が限定的になっている。購買意欲も余り変化がない。
	▲	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・例年と比べて求人数が減少している。取引先の中には、賃上げによる人件費増加のために、できるだけ募集を抑制している企業もある。
	×	*	*	*